

令和7年度 世田谷区立松沢中学校関係者評価委員会報告書

松沢中学校 学校関係者評価委員会

1. 調査の結果

本報告書は、「次年度に向けた改善方策」(令和7年3月31日付)で示された、令和7年度に改善すべき内容項目と関係する世田谷区実施の学校関係者評価アンケート結果、および生徒・保護者・教員へのヒアリングとを併せて分析したものである。本年度は、アンケート項目が大幅に変更されたため、新設の質問項目については前年度までとの比較はできない。また、前年度までのアンケート項目と趣旨は同じであっても、問い方が変わっているものや、一つの質問項目を二つに分けたものなどもある。質問の趣旨が大きく変わっていないものについては、前年度までの質問項目の数値を参考値として分析に活用した。それらは、表の下部に前年度までの質問内容を記載している。

表は、質問項目の過去と今年度との比較である。横軸(学年別)で見れば、固定した学年の特色をみることができる。また、斜め(経年変化)は、同一学年集団の変化をみることができる(色分けの通り)。

今年度のアンケートの回収率は、生徒81.6%、保護者59.5%である。

2. 調査概要

2-1 互いを尊重しあい、認め合う「心」をはぐくむ教育の推進

(1) 生徒間で注意できる雰囲気醸成に努める。委員会をはじめとするリーダーの育成・指導と教員によるフォローをしていく

【生徒9-(2)】「私のクラスには、生徒同士で注意し合うことができる」という質問項目の肯定的回答は、全体で84%(+21%)と大幅に増加した。経年変化でみると、現2年生は79%(+12%)、現3年生は93%(+40%)と大きく変化した。

生徒へのヒアリングでは、「クラス全員が注意しあっているのではなくて、一部のリーダーがその役割を担っています。でも、周りはその生徒の指摘に対して不満には思っていないです」といった発言が複数得られた。注意するリーダー的役割の生徒は少数とみられるが、それらの生徒がクラスの規律や雰囲気を作ることができていることがうかがえる。

生徒9-(2) 私のクラスでは、生徒同士で注意しあうことができる。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	71%	78%	67%	83%
2年生	83%	77%	53%	79%
3年生	80%	75%	67%	93%
全体			63%	84%

~R6: 私のクラスは、生徒同士で

注意しあうことができる雰囲気がある。

【生徒4-(4)】「私は、学校行事や委員会活動などを通して主体的に行動することができるようになった」という質問項目の肯定的な回答は、全体で82% (+3%)となった。

経年変化をみると、現3年生は89%(+7%)と増加したが、現2年生は昨年度から変化がない。この項目は、生徒の成長に伴って向上が期待されるものの、この2年間は、1年次から2年次にかけて、肯定的評価が増えていない。

生徒4-(4) 私は、学校行事や委員会活動などを通して主体的に行動することができるようになった。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	74%	81%	77%	84%
2年生	86%	83%	82%	77%
3年生	84%	83%	79%	89%
全体			79%	82%

~R6:私は、委員会や係活動などの授業外の活動に積極的に取り組んでいる。

(2) 道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む

【生徒2-(7)】「道徳の授業を通して、自分とは異なる多様な考え方に触れることができる」という質問項目の肯定的回答について、全体では84%となった。学年別でみると、現2年生の77%と低く、学年による評価の違いがはっきり出た。

しかし、全体として高い評価となったのは、たとえば道徳授業地区公開講座では、ロイロノートを用いて生徒同士の意見を全体に共有し、多様な考えに触れるきっかけを与えるような授業づくりがされていた。こうした、教員の学びと日々の丁寧な教育実践の成果がこの数値にあらわれている。

生徒 2-(7) 道徳の授業を通して、自分とは異なる多様な考え方に触れることができる。				
	R4	R5	R6	R7
1年生				86%
2年生				77%
3年生				90%
全体				84%

(3) 日々の学校生活や行事を通して、生徒の自尊感情や認め合う力、より良い人間関係を作り上げる力を育てる

【生徒9-(3)】「私のクラスでは、先生や生徒同士が話しやすい雰囲気がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で94%(+8%)となり、すべての学年で90%を超えた。経年変化でみると、現3年生は、97%(+5%)と肯定的割合が増加した。また、現2年生においても、94%(+9%)と肯定的割合が増加した。

学校では、生徒が教員に相談しやすい環境を作るため、教員が授業後に教室に残って相談対応を行ったり、授業のない教員が教室前や廊下で見守りを行ったりするようにした。こうした取り組みが、成果として現れた。

生徒 9-(3) 私のクラスでは、先生や生徒同士が話しやすい雰囲気がある。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	86%	82%	85%	92%
2年生	92%	84%	92%	94%
3年生	96%	85%	83%	97%
全体			86%	94%

【生徒4-(3)】「先生は、学校行事において生徒の意欲を大切に指導している」という質問項目の肯定的評価は、全体で93%(+5%)となり、全ての学年で90%を超えた。

従前は、質問が学校行事のカテゴリーであることが理解できていれば適切に回答できるものの、質問だけをみた場合に、どのような場面の指導について訊ね

られているのかがわかりにくかった。今年度は、質問に学校行事の場面であることを明記した。そのことも多少、影響しているかもしれないが、いずれにせよ学校行事における教員の指導、教員の生徒とのかかわり方について、生徒は高く評価していることがわかる。

教員へのヒアリングでは、教員が生徒に対して、主体的に行動できるようになるための指導を意識して行っているということが聞き取れた。生徒へのヒアリングでも、教員は生徒の考えや判断を肯定的に受け止めたり、生徒が決定した事柄に対しては過度に介入することなく、客観的な視点から助言をおこなったりしているということが複数聞き取ることができた。教員の思いは、生徒に適切に届いている。教員が生徒の主体的な行動を適切に促していくことによって生徒の自己肯定感が高まり、そのことがまた主体的に行動する意欲を育む。松沢中学校では、こうした循環を生むことができているのは生徒の成長にとって大きな効果がある。

【生徒9-(1)】「思いやりの心や認め合う心をもって、友達やほかの人と接している」という質問の肯定的回答は、全体で94%(+4%)となった。経年変化でみると、現3年生は、99%(+10%)現2年生は91%(+4%)肯定的評価が増加した。

生徒4-(3) 先生は、学校行事において生徒の意欲を大切に指導している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	88%	95%	95%	93%
2年生	88%	87%	87%	91%
3年生	93%	82%	82%	96%
全体			88%	93%

～R6:先生は、生徒の意欲を大切にしている。

生徒9-(1) 私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達やほかの人と接している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	88%	90%	87%	94%
2年生	90%	85%	89%	91%
3年生	94%	90%	92%	99%
全体			90%	94%

～R6:私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している。

2-2 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

(1) 「知識を教える」から「主体的に課題を解決する探究的な学び」となる授業を推進する

【生徒2-(3)】「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で96%(+2%)と、引き続き高い評価が得られた。授業見学の際にも、どの教科・どの教員の授業でもグループワークが積極的に行われており、生徒が主体的に取り組んでいる様子を確認することができた。

生徒2-(3) 授業では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	96%	99%	91%	99%
2年生	89%	94%	98%	91%
3年生	92%	93%	94%	97%
全体			94%	96%

【生徒2-(6)】「私は、授業を通して、主体的に学習する態度が身についた」という質問項目の肯定的回答は、全体で80%となった。

たとえば、【生徒2-(3)】「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」において、肯定的回答が全体で96%と非常に高い評価を得ている点などは、主体的な学習態度の醸成につながるものと思料される。

【保護者1-(2)】「子どもは家庭で主体的に学習に取り組んでいる」という質問項目に対する回答結果は、肯定的回答が全体の50%(-2%)となった。この質問項目については、否定的回答が41%(-5%)となっており、「分からない」とする回答は少数でありも家庭の評価は生徒の自己評価と大きく異なる。

否定的回答が多い背景には、昨年度までと同様に、保護者へのヒアリングで得られた「タブレットで学習をしているのか動画を見て遊んでいるのか分からない」といった回答の多さを踏まえると、保護者の「タブレット活用に対する不信感」が関係しているとみられる。

生徒2-(6) 私は、授業を通して、主体的に学習する態度が身についた。				
	R4	R5	R6	R7
1年生				80%
2年生				77%
3年生				83%
全体				80%

保護者1-(2) 本校の授業を通して、子どもは主体的に学習する力がついた。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	55%	48%	42%	48%
2年生	40%	38%	47%	48%
3年生	81%	67%	68%	55%
全体			52%	50%

~R6:本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。

(2) タブレットに限定されずICT機器を活用し、「より学習効果が期待される授業」「分かりやすい授業」となるよう教材研究・準備を進める

【生徒2-(1)】「先生は、分かりやすい授業をしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で90%(+2%)と、前年度の88%から上昇し、高い評価が得られた。

学年別にみると、1年生は93%(+12%)と昨年度の1年生に比べて大幅に改善された。なお、2年生は他学年に比べて肯定的評価は低く、それは1年次から続いている。

生徒2-(1) 先生は、分かりやすい授業をしている。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	83%	95%	81%	93%
2年生	92%	81%	88%	85%
3年生	95%	84%	93%	93%
全体			88%	90%

~R6:先生は、映像やタブレットなどのICTを活用し、分かりやすい授業をしている。

生徒へのヒアリングにおいて、「歴史の先生が身近な例を挙げて話してくれるので、親しみやすく面白い」といった声にみられるように、生徒の興味関心を引き出す教員の指導工夫が「分かりやすい」授業につながっている。生徒からは、「ICT機器を使った授業の方が、黒板だけの授業よりも分かりやすく、楽しい」といった肯定的な意見が多く挙げられた。具体的には、主要5教科に限らず、体育における動画視聴を通じたフォームの確認や音楽における録音や動画視聴での活用など、実技教科を含めたほぼ全教科においてタブレット端末が日常的に活用されている実

態が確認できた。こうした視覚的・双方向的な授業展開が、生徒の学習意欲を向上させている。

【生徒2-(5)】「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用している」という質問項目の肯定的回答は、全体で94%(+6%)と高い評価が得られ、また全ての学年で90%以上となった。

生徒へのヒアリングにおいて、授業内では「Qubena(キュービナ)」によるAIを用いた個別学習や、「Kahoot!(カフト)」を用いたゲーム感覚での単語学習、「ロイロノート」による生徒間の意見共有など、多様なアプリケーションが目的に応じて使い分けられていることが確認できた。

生徒2-(5) 先生は、映像やタブレットなどのICTを利用している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	83%	95%	81%	95%
2年生	92%	81%	88%	91%
3年生	95%	84%	93%	96%
全体			88%	94%

~R6: 先生は、映像やタブレットなどのICTを活用し、分かりやすい授業をしている。

(3) ICT機器の活用を含め、言語活動を基盤とした「自分の考えを発信する学び」を積極的に取り入れる

【生徒2-(2)】「先生は、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という質問項目の肯定的回答は、全体で95%(+2%)となり、全学年で90%を超える高い評価が得られた。

【生徒2-(3)】「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」という質問項目の肯定的回答は全体で96%(+2%)と高く、これも全学年で90%以上という高い評価が得られた。

生徒へのヒアリングから、ロイロノートなどを用いることで、発表や意見交流がしやすくなったこと確認することができおり、言語活動を基盤とした「主体的に考えて発信する学び」が定着している。

生徒2-(2) 先生は、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	91%	100%	87%	96%
2年生	95%	91%	99%	94%
3年生	98%	91%	94%	97%
全体			93%	95%

~R6: 先生は、課題について、自分で考えたり友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。

生徒2-(3) 授業では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	96%	99%	87%	96%
2年生	89%	94%	99%	94%
3年生	92%	93%	94%	97%
全体			94%	96%

(4) キャリア・未来デザインの教育の一環として、3年間の系統的・計画的なキャリア教育を推進する。生徒にとって進路・進学に限定されない「未来」「生き方」を考えさせる

【生徒5-(1)】「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」という項目の肯定的回答は、全体で79%(+4%)となった。

経年変化でみると、現2年生は79%(+24%)、現3年生は94%(+20%)と肯定的回答が大幅に増加した。

保護者へのヒアリングでは、「大人がどうやって仕事をしているかということについて身をもって体験する活動があったのはよかったと感じています」といった声が複数聞かれており、職場体験活動が生徒、保護者ともに高く評価されている。

【生徒5-(3)】「私は、キャリアパスポートに書いたことについて、振り返ったり活用したりする機会がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で79%(+10%)となった。

今年度から質問の問い方が変わり、「行動」に結びついていることよりもまず、キャリアパスポートが活用されているかどうかを訊ねる質問になった。3年生で高まっているのはよい傾向といえるが、1年次からでも肯定的評価を高めることができる項目であると考えられる。

【生徒5-(4)】「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」という質問項目の肯定的回答は、全体で86%(+6%)となった。

経年変化でみると、現2年生の数値は80%(+25%)、現3年生は89%(+16%)となった。昨年度の「次年度に向けた改善方策」2-(4)「キャリア・未来デザイン教育の一環として6年間の系統的・計画的なキャリア教育の推進」の取り組みの効果が表れつつある。

【保護者4-(2)】「本校は、進路や子どもの将来に関する情報を提供している」という質問項目の肯定的回答は、全体が61%(+6%)となった。

学年別でみると、1年生が60%(+11%)、2年生が59%(+13%)と増加した。また、経年変化でみると、現2年生は59%(+10%)、現3年生は66%(+20%)と、前年度よりも大幅に増加した。

ただし、保護者へのヒアリングでは、「キャリア教育に関する保護者向けの情報発信は行われていない」という声もあった。進路情報の中でもキ

生徒 5-(1) 自分の進路や将来の仕事、生き方について考える授業がある。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	93%	66%	55%	64%
2年生	83%	74%	74%	79%
3年生	95%	86%	90%	94%
全体			75%	79%

~R6:自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。

生徒 5-(3) キャリアパスポートに書いたことについて、振り返ったり活用したりする機会がある。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	67%	73%	62%	78%
2年生	70%	71%	76%	76%
3年生	63%	64%	70%	86%
全体			69%	79%

~R6:私は、キャリアパスポートに書いた目標について、考えて行動している。

生徒 5-(4) 学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	73%	66%	55%	64%
2年生	69%	65%	73%	80%
3年生	92%	86%	87%	89%
全体			80%	86%

保護者 4-(2) 本校は、進路や子どもの将来に関する情報を提供している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	50%	44%	49%	60%
2年生	58%	56%	46%	59%
3年生	83%	63%	69%	66%
全体			55%	61%

~R6:本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。

キャリアに関する発信は学校のホームページで確認することができるものの、普段のキャリア教育実践の蓄積をみることはできない。実践の蓄積や年間のスケジュール等をいつでも見ることができるような場が必要である。もちろん、これまで通り、すぐーるでの発信や学校ホームページの学校日記での紹介は有効ではあるが、併せて学校ホームページの「進路・キャリア教育」のページに松沢中学校のキャリア教育の目標や年間計画、活動報告を見返すことができるようにすることも有効ではないだろうか。

【保護者4-(3)】「本校は、キャリアパスポートを活用している」という質問項目の肯定的回答は、全体で59%(+4%)となった。結果から全ての保護者が活用を認識しているとは言えない。

キャリアパスポートは、教員と保護者が連携し、生徒が学校生活を通して自己理解を深め、将来の進路を主体的に考え将来像を築き上げていくものである。保護者にとっても、子どもの成長記録として把握していくことは、子どもの進路選択の過程を認識する重要なツールの一つとなる。このことを保護者が十分認識できているとはいえない。キャリア教育・キャリアパスポートを通じて、生徒と保護者をいかに学校が巻き込むことができるかが課題となる。キャリアパスポートには保護者の確認印を求めていたり、コメントを書くことができるようになっていたりするものの、この回収状況を踏まえた対応策も検討したい。

保護者 4-(3) 本校は、キャリアパスポートを活用している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	53%	53%	51%	65%
2年生	42%	63%	45%	59%
3年生	81%	60%	67%	50%
全体			55%	59%

~R6: 本校は、キャリアパスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている。

2-3 地域連携の充実と適切な情報発信の改善

(1) 情報発信の活用方法、運用方法について、検討・整理し、必要な情報をタイムリーに発信していくよう再構築する

【保護者8-(1)】「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」という質問項目の肯定的回答は、全体で82%(+2%)となった。

学年別で見ると、2年生は80%を下回っており、昨年度からみても低いまま推移している。

【保護者8-(2)】「本校はホームページやすぐーるなどで、情報を適切に提供している」という質問項目の肯定的回答は、全体で87%(+7%)となった。いずれの学年も80%以上の肯定的回答が得られ、従前の水準に戻りつつある。

保護者へのヒアリングから、「すぐーる」を活用して

保護者8-(1) 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	85%	89%	72%	82%
2年生	95%	85%	80%	78%
3年生	98%	89%	86%	86%
全体			80%	82%

保護者8-(2) 本校は、ホームページやすぐーるなどで、情報を適切に提供している。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	84%	97%	77%	90%
2年生	82%	82%	80%	82%
3年生	100%	88%	83%	88%
全体			80%	87%

保護者に情報が直接届く仕組みへの評価が高い。また、昨年度の報告書では、すぐーるで様々な配信が入ることで、結果として「大切な情報を見過してしまう」点を指摘したが、今年度からすぐーるのフィルタリング機能を積極的に活用した。なお、保護者からは必要な情報が埋もれてしまわないように利用者自身でフォルダ分けできる機能を追加して欲しいという声もあった。

(2) 教育資源を活用した「職場体験」、地域で活動する「ボランティア活動」など体験活動の充実や参加促進の広報に努め、地域と連携した学校づくりを推進する

【生徒10-(1)】「私は、ボランティア活動に関心をもっている」という質問項目の肯定的回答は、全体で56%(+12%)と前年度と比べ大幅に増加した。また、経年変化でみても今年度の2年生は、62%(+21%)、今年度の3年生は45%(+19%)と大きく上昇しており、ボランティア活動への関心が高まっている。

【生徒10-(2)】「私はボランティア活動をしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で27%となった。いずれの学年においても30%を下回っており、全体としてボランティア活動への参加にまでは十分、至っていない。

生徒へのヒアリングでは「学校からのお知らせが少ないから、生徒主体で動かないと機会がない」等の意見が複数あり、ボランティアへの参加姿勢は受動的である。教員からも、「受験に役立つかも」、「委員会に入っていない人はやったほうがいいかも」という程度の働きかけにとどまっているという声も聞かれた。生徒にとっては、関心は高まりつつあるものの、ボランティア活動をすることが将来にどのように活かされるのかを含め、活動の意義が十分に理解されていないようである。この件に関しては、未だ生徒の主体性が十分に活かされていない。

【保護者10-(1)】「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」という質問項目の全体の肯定的回答は、51%(-2%)となった。

学校は地域と連携した様々な取り組みをおこなっているが、残念ながら、そのことが保護者に十分、伝わっていない。

生徒10-(1) 私は、ボランティア活動に関心をもっている。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	49%	42%	41%	58%
2年生	45%	51%	26%	62%
3年生	40%	57%	57%	45%
全体			44%	56%

生徒10-(2) 私は、ボランティア活動をしている。				
	R4	R5	R6	R7
1年生				29%
2年生				28%
3年生				24%
全体				27%

保護者10-(1) 本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。				
	R4	R5	R6	R7
1年生	53%	66%	50%	57%
2年生	50%	56%	46%	48%
3年生	67%	48%	60%	47%
全体			53%	51%

3.全体を通しての所見

3-1 概観

本校の生徒による、学校の取り組みや教員の指導に対する評価は非常に高い。とりわけ、授業、生活指導、学校行事、クラスの雰囲気、教員との関係性といった、まさに学校教育の根幹に関わることについての評価が高い。キャリア教育に関しては、【生徒5-(1)】「自分の進路や将来の仕事、生き方について考える授業がある」という項目において、学年で差はあるものの、学校全体でキャリア教育を計画づけていることが少しずつ成果としてあらわれてきている。

保護者については、全体的に肯定的な回答が増加傾向にある。例えば、【保護者3-(2)】「子どもは、学校行事を通して成長している」という質問項目では、肯定的回答が91%と高い評価が得られた。また、【保護者8-(2)】「本校は、ホームページやすぐーなどで、情報を適切に提供している」という質問項目の肯定的回答も、保護者全体で87%と高い評価を得ることができた。

3-2 昨年度の課題への対応について

①生徒間で注意できる雰囲気の醸成

【生徒9-(3)】「私のクラスでは、先生や生徒同士が話しやすい雰囲気がある」では、肯定的評価の割合が全学年で90%を超えた。教員や生徒同士が話しやすい雰囲気を作ることは、決して容易ではない。教員の意図的かつ有効な働きかけがあってはじめて達成できる。また、こうした雰囲気をベースにして、互いに注意しあえる教室空間や子どもたちが安心して成長できる場を形成することができるようになる。そうした基盤は、しっかりと作られている。

②ICT機器活用の推進

多くの授業で積極的にICTが活用され、生徒が主体的に学び、言語活動を駆使するような授業が着実に展開されており、授業の質は生徒から高く評価された。

③地域連携の充実と適切な情報発信

保護者への情報発信手段として活用されている「すぐー」は便利な一方、情報過多となりやすく、重要なお知らせを見過ぎてしまうことも多いことが従来から指摘されてきた。今年度は、フィルタリング機能の活用によって、できる限り必要な情報をより適切に提供できるようになった。このことは、【保護者8-(2)】「本校は、ホームページやすぐーなどで、情報を適切に提供している」の肯定的評価に表れている。

3-3 本年度の課題点

①家庭におけるICT機器の活用に関する課題

学校ではICT機器を活用した学習が日常化している一方、保護者はタブレット端末の家庭での使用が、学習で使用されているのか、娯楽目的なのかわからないことを心配している。【保護者1-(2)】「本校の授業を通して、子どもは主体的に学習する力がついた」や、【保護者6-(4)】「子どもは、家庭で宿題やEラーニングなどで学習している」の肯定的回答は、いずれも50%前後にとどまっ

ている。保護者へのヒアリングでは、「パスワードを把握してない、(子どもが)教えてくれない」といった声も聞かれた。また、動画閲覧の可否は世田谷区教育委員会の設定に基づくため、学校独自で変更することはできない。

以上のことを踏まえると、家庭でのICT利用についてのガイドラインを学校独自に策定し、生徒と保護者にしっかりと共有することが必要であると思われる。

②ボランティアに関する課題点

生徒のボランティアへの関心は高まっているものの、実際に参加した生徒は少ない。学校が生徒のボランティアへの参加を大事な経験として推奨し続けるか否かにもよるが、推奨するのであれば、ボランティア活動の意義をたとえばキャリア教育や道德教育の題材などを活用することができると思われる。ボランティアの情報はすでに学校からも伝えられる機会はあるということだが、関心と参加との間にはまだ壁がある。生徒は、近くて友だちと参加できるようなものであれば参加したいと思うなどの要望がヒアリングからも聞き取れた。はじめて参加するという心理的負担を考えるならば、そうしたニーズが満たせるようなボランティアをより積極的に紹介していくことができれば、次の参加へと継続していきやすくなる。本来は、こうした情報の取得も生徒の主体性を俟ちたいところではあるが、参加を促していくのであれば、「はじめの一步」は低い方がよいだろう。大きなイベントでなくとも、地域のゴミ拾いや清掃、小学校との交流など、学校の企画に生徒の参加を促していくことも考えられる。

③すぐーの利用について

すぐーの機能を活用すれば、利用のしやすさは確実に向上するとみられる。利用されやすいカスタマイズの方法をまとめたものを保護者に伝えられれば、保護者との連携がより円滑になっていくのではなかろうか。

今年度は、アンケートの質問項目が大きく変わったが、変更の趣意は①質問の意図が明確にわかるようにしたこと、②一つの質問に複数の価値を含まないように整理したこと、③松沢中学校の経営方針に沿った質問をできる限り設定したことにある。今年度の、特に生徒の評価は全体的に上がったが、それは学校の対応、取り組みが功を奏したのは言うまでもない。また、経営方針にしっかり対応した質問で聞くことができた点で、従前よりも正確に回答者の考えを得ることができたと考える。その上で、授業、生活指導、学校行事、教員との関係やクラスの雰囲気づくりといった教育活動が高い評価を得ていることについては、学校が一丸となってよりよい教育、生徒の主体性を育もうとする思いが成果として表れているといえる。

今後も、生徒が安心して通学し、生徒と教員と保護者がともに成長していくことができる場であり続けることを願っています。最後に、本報告書を作成するにあたり、お忙しい中、アンケートやヒアリングなどにご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

以上